

紀北西道路無事故700日達成 の軌跡と創意工夫について

木村 信雄¹・井上 謙²

¹近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 建設監督官 (〒640-8482 和歌山県和歌山市六十谷226-76)

²近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 工務第二課 (〒640-8227 和歌山県和歌山市西汀丁16)

和歌山河川国道事務所では京奈和自動車道の平成28年度開通に向け、現在、紀北西道路の建設を行っています。紀北西道路建設事業において、工事事務防止のための工事安全連絡会を設立し、「無事故現場チャレンジ」を掲げ、工事安全連絡会関係者が連携し、約2年間に渡り、無事故700日を達成した軌跡とその過程での創意工夫について紹介するものである。

キーワード ゼロ災害、安全、工事関係者間の連携

1. はじめに

京奈和自動車道とは、京都～奈良～和歌山の拠点都市の連携強化を図る高速道路であり、整備されることにより、地域の産業、観光及び農業振興の面で大きく期待されています。

京奈和自動車道の和歌山県域（整備延長40.4km）では平成27年度9月までに33.9kmが供用し、現在、平成28年度末全線供用に向け、紀北西道路6.5kmの工事を実施しています（図-1）。



図-1 京奈和自動車道（和歌山県域）の整備状況

平成26年度当時、和歌山建設監督官詰所が担当する紀北西道路8工区において、平成25年度の近畿地方整備局管内の工事事務等の発生件数が過去10年間で最も多く発生したこと（図-2）を受け、紀北西道路8工区の工事関係者が工事安全連絡会（8工区）を平成26年度4月に設立し、「無事故現場」チャレンジを掲げ、安全の取り組みを開始しました。



図-2 近畿地方整備局管内における工事等事故発生状況

2. 工事安全連絡会における取り組み

工事安全連絡会では以下のような取り組みを実施しました。

- ・安全パトロール（年4回程度）（図-3）

工事安全連絡会関係者による合同パトロール、長期休暇前の全現場安全パトロールを実施しました。



図-3 工事安全連絡会での合同パトロール

・外部講師の安全講話

以下の関係機関から講師として招き、工事安全に対する講話をいただいた。

- 和歌山河川国道事務所副所長及び工物品質管理官
- 和歌山労働基準監督署
- 和歌山県警察署
- 労働安全コンサルタント
- 建設業労働災害防止協会



和歌山労働基準監督署

・救命講習、訓練（心肺蘇生・AED）

消防署の指導のもと、救命講習、訓練を実施し、救急時に備え、現場へのAEDの設置も行った。（例、高さ約70mもある橋梁工事では各橋脚毎に上部工施工場所へのAED設置を実施）。

・ビデオ教育（建退共、交通安全、防災）

・全国安全週間標語募集への参加

・ダンプトラックの過積載防止の教育

月毎の工事安全連絡会の実施にあたっては、開催幹事を連絡会員による順番性とし、連絡会員全員が積極的な参加を行うことで安全意識の向上を図りました。

工事安全連絡会の設立1年後には関係者連携のもと、ゼロ災が達成され、継続1年を記念し、監督官詰所玄関に安全掲示板を設置しました（図4、700日達成時）。

その後、目標500日の達成、続いて目標700日については平成28年2月29日に連続日数700日を達成しました。

工事関係者は詰所へ来庁し、安全掲示板を目にする度に、自らの現場だけでなく、工事安全連絡会として無事故を継続できていることを再確認し、改めて、チャレンジの気持ちを持つことができました。



監督官詰所玄関に設置した掲示板

図-4 安全掲示板の設置（ゼロ災継続状況）

3. 工事毎の安全管理の取り組み

（切土盛土工事について）

- ・場内工事用道路と作業箇所の分離
法面の大型土嚢設置による走路確保、カラーコーンによる走路確保を行いました。



大型土嚢設置による走路確保



カラーコーンによる走路明示

- ・一般道走行における安全パトロールの強化
ダンプトラックの土砂運搬ルートについて、ハザードマップの作成及び周知を行い、また、一般道での安全パトロールも実施しました。

また、土砂運搬が最大600台/日あることから、GPS端末による車両位置管理システムの導入とダンプトラック待機場の確保を行いました。



残土運搬ルート ハザードマップ



パトロール実施状況(国道24号線)

(橋梁上下部工事について)

・安全パトロールの強化

元請安全衛生責任者だけでなく、当該作業とは別作業の安全衛生責任者や下請業者も参加し、パトロール内容の充実を行いました。

・安全教育訓練等の充実

玉掛け訓練、救命訓練、防火訓練等の実地訓練を導入することで教育内容の充実を行い、作業員全体の理解度が向上しました。

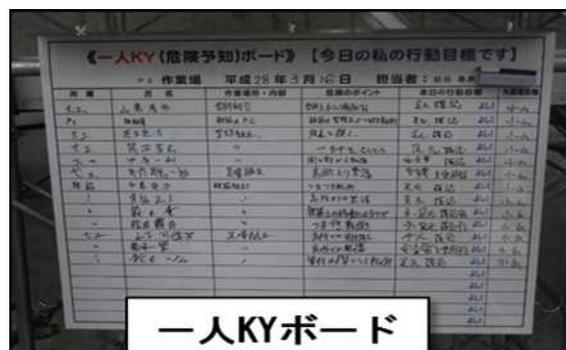


玉掛け実地訓練の実施

・リスクアセスメントの活用

毎日の作業前のKY活動において、作業員一人

一人が自ら、作業時のリスクを考え、KYボードへ記載することで、個々の安全意識及び理解度の向上を行いました（一人KYボードの採用）。



一人KYボード

・現場作業環境の改善

エアコン、ウォーターサーバー等の作業員が要望する作業環境設備には極力応え、費用を惜しまず実施し、現場作業環境の改善を図りました。

・元請職員と作業員のコミュニケーション

元請職員と作業員とのコミュニケーションを図るため、「やれ」「やってください」ではなく、「一緒にやろう」の気持ちで現場の一体感を創造しました。

安全の取り組みについて、積極的に取り組み、優秀な取り組みについては安全表彰を行い、作業員の安全意識の向上を行いました。



安全表彰

4. まとめ

どのような現場においても、日々の安全活動は厳格に管理され実施されています。

工事安全連絡会として、無事故700日を継続できたのは以下のようなことが考えられます。

・協力業者とのコミュニケーションを活発にする。

何でも言い合える現場の雰囲気を作る。

元請職員が協力業者の模範になる。

現場作業環境の改善要望には応え、安全管理に係わる設備には費用を惜しまない。

協力業者と一体化したパトロールを実施する。

- ・隣接工区との情報共有と協力体制を強化することで一体感が生まれ、互いの安全意識の向上が図れる。

5. おわりに

工事事故の発生は工事関係者だけでなく、地域へ与える影響も大きく、公共事業のイメージそのものを低下させるものです。

受注者である元請業者は下請業者等の工事関係者全てに対して、安全教育及び安全点検等適切な安全管理を行う責務があり、重要なことは言うまでもありません。

今回、安全に対する取り組みを通じ、元請業者からの教育だけでなく、作業員全体の安全に対する意識向上のための環境づくりと工事関係者の連携が無事故・無災害を達成する上で最も重要であると感じました。

工事安全連絡会を構成するメンバーは経過とともにかわりますが、引き続き、無事故・無災害の継続と工事事故の撲滅に向け、より一層取り組んでまいりたいと考えています。